

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	慢性腎臓病（CKD）の進展に関わる因子の重みつけスケールの作成と有用性の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	荒井 孝子
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	東野 定律
		所属・職名	国際医療福祉大学・教授	氏名	天野 隆弘
		所属・職名	国際医療福祉大学・教授	氏名	武田 英孝
		所属・職名	国際医療福祉大学・教授	氏名	池田 俊也
		所属・職名	国際医療福祉大学・教授	氏名	竹中 恒夫
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	荒井 孝子

講演題目	男女別にみた eGFR の変化を予測する因子について
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究では、すでに行ってきたデータを対象として、そのうち5年以上経過例の初回例のスコアを算出し、5年以上経過した例の eGFR 低下の程度、また予測値を推定可能か検討することを目的とした。</p> <p>これまで、令和元年～4年度の科学研究費（延長含む）（基盤 C）の助成を受け、A 健診施設を平成 21 年 10 月から令和元年 7 月までに受診した患者で 5 年以上経過した者を対象に初回受診時の eGFR 分類を基に、eGFR 正常群（2,537 人）、eGFR 異常群（244 人）に群分けを行った。次に、eGFR の変化に伴う各因子の変化をみるために、初回受診時と最終受診時の eGFR 分類を基に、初回 eGFR 正常から最終 eGFR 正常へ経過した群を正常-正常群（2,281 人）、初回 eGFR 正常から最終 eGFR 異常へ変化した群を正常-異常群（256 人）、初回 eGFR 異常から最終 eGFR 正常へ変化した群を異常-正常群（49 人）、初回 eGFR 異常から最終 eGFR 異常へ経過した群を異常-異常群（195 人）として、4 群による分析を行った。12 項目の検査結果の平均値の差を比較するため、一元配置分散分析と多重比較（Bonferroni 法）を行った結果、5 年以上の期間で正常から異常へと変化した群と正常を維持した群に差があった項目は、男性では収縮期血圧のみであったのに対し、女性では総コレステロール、中性脂肪、nonHDL コレステロールの 3 つに差が見られ、正常から異常へと変化した群がともに高い値を示した。対応のあるサンプルの t 検定によりこれらの因子の変化に差があるか見たところ、男性では正常から異常へと変化した群と正常を維持した群と異なった変化をした因子は 5 つ、女性では 6 つであった。特に収縮期血圧についてはどちらの性でも正常から異常へと変化した群では因子の変化には有意差がみられず、正常を維持した群より高い値を維持する結果となった。</p> <p>以上より、eGFR の変化を予測する因子として、男女ともに収縮期血圧値、女性ではそれに加え中性脂肪、non HDL コレステロール値が重要な要因であることが明らかになった。</p>